

ることながら、このネットワークのリリーダーとしての役割をも期待されていることになる。ヴィッテンベルゲが「ミドルクラスター」であるならば、複数存在するこのクラスの都市をまとめ、先導する役割を担わされた重要な都市、それが「ベシツククラスター」なのである。「ベシツククラスター」の都市であるベルレベルクは、「ミドルクラスター」の都市と連携することによって、ハンブルクやベルリンといった大都市にも引けをとらない魅力を創造していかなければならない。

以前の重要な貿易路であった通りのマ

東ドイツ小都市の歴史街区の開発コンセン

——二つの都市の事例

ゲラルド・ロエマー「都市計画事務所フランクフォルト・ハンブルク」

東西ドイツの統一における課題と展望

どの国においても取り残された場所がある。それには様々な背景が存在する。その国にとって誇れる有名なものはなく、重要な場所からは遠く隔たってしまったっているか、あまりにもその場所自身のことには忙殺されている。あるいはこゝも言えるかもしれない。それらの場所は再び発見されることを待ち望んでいる、磨かれていないダイヤモンドのようだと。

■厳しい変革の中で

1989年の東西ドイツの統一とともに、政治、経済、社会、文化、そしてそれ以外の厳しい変革が東ドイツ全土を敵

ンホールには、ベルレベルクがブリゲニツの都府であることを示すデザインが施されている。大きな星の周囲を囲む小さないくつもの星がその図柄だ。東ドイツの都市は今、いづれも厳しい状況にさらされている。独り立ちしていくにはそのハードルはあまりにも高い。手を携え、助け合うこと。力のある者が、さらなる弱者に手を差し伸べること。以前は都府としての権力を誇示するデザインであったであろうマンホールの星は、歴史に翻弄された悲しき過去を共有する多くの街と、共に成長することを意図しているかのようにも見えてくる。

い尽くした。すべての人々が全く新しい状況に適応しなければならず、東ドイツの街々もまた同じ状況であった。小さな街から重要な大都市まで、あらゆる場所ですべては今も統制されている。経済力の多大な損失と最大18%に及ぶ失業者の増大をもたらした。社会、経済統計によれば、東ドイツを離れた、あるいは居住地を変えた住民（とりわけ若年層）は1991年までに7%に達したという。生活保護のみ頼る人々の数は激増し、出生率は統一以前に比べて大幅に低下した。これらの変化に加えて、別の問題が古い市街地に影響を及ぼしていった。

統一後もなく新しい大規模のショッピングセンターが、車のアクセスしやすい街はずれにオープンしたため、開発の

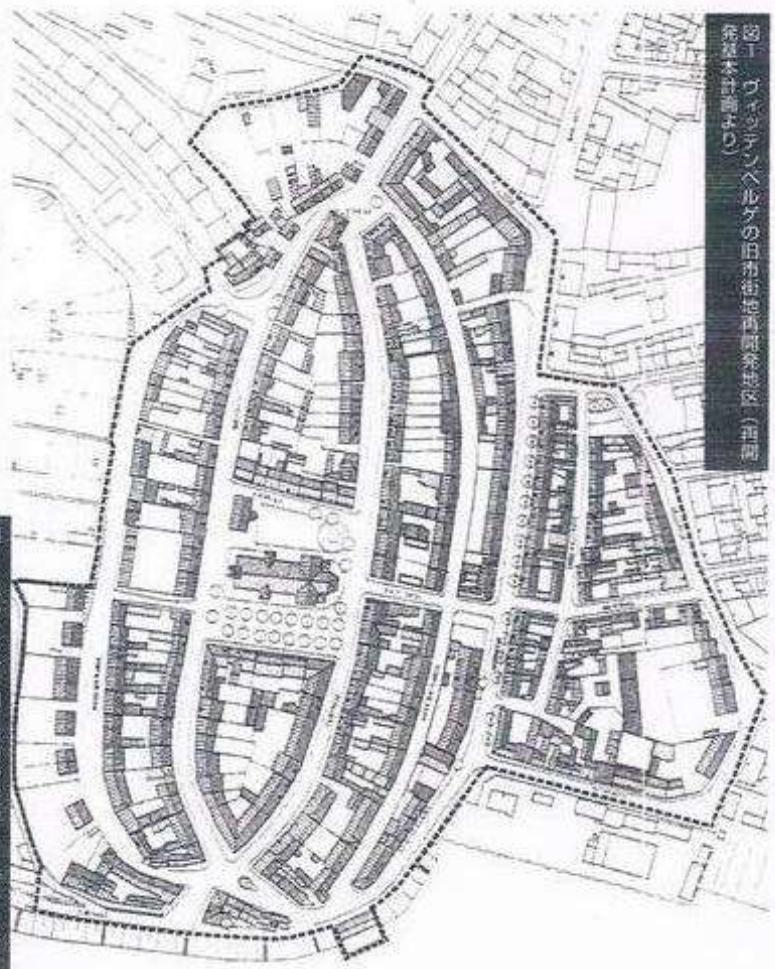


図1 ヴィッテンベルクの旧市街地再開発地区（再開発計画案）



図2 ベルレベルク旧市街地の緑化・オープンスペース計画図（名称と街並み計画図）（左）（再開発案）（右）BIG作成より

遅れた古い市街地の商店街と競合するようになったのである（旧東ドイツの売場面積は旧西ドイツの5分の1に満たなかった）。ヴィッテンベルクのような街では、中心部の都市生活をほぼ壊滅させ、今では商店の多くが空家になっている。

特に大きな問題であった（一部の不動産ではいまだに大きな問題である）のが、東ドイツ時代の社会主義制度に起因する不動産所有の混乱である。このような状況は、第一次世界大戦前に市街化した街に悪い影響を及ぼしている。これらの地域は、修復の熟練職人を擁する特別な建設会社を必要とするが、東ドイツ時代には大変複雑に維持管理されていた。社会主義経済の優先順位は、協同組合

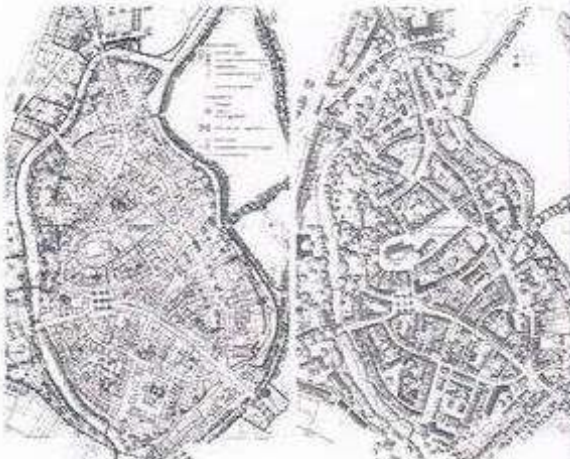


図3 ベルレベルク旧市街地の緑化・オープンスペース計画図（名称と街並み計画図）（左）（再開発案）（右）BIG作成より